



▼ 感染症発生動向調査 週間コメント

《疾病別 推移グラフ》

2-17492

第17週 (H28.4.25～H28.5.1)

■今週のトピックス

今週(2016年第17週:4/25~5/1)は休日を1日含みます。インフルエンザが8週連続で減少し、キットではA+は少なくB+が大部分を占めています。感染性胃腸炎ではロタウイルスが多くノロウイルスも多い。RSウイルス感染症の発生も続きます。大型連休等での旅行・移動等による感染曝露に伴う流行発生にご注意下さい。

病名	報告数	前週比	主な増加地区等	1点当たりの患者数	
				福岡県	全国
インフルエンザ	433	54%	福岡208、北九州100	2.19	4.22
RSウイルス感染症	75	72%	福岡43、北九州16	0.63	0.19
咽頭結膜熱	72	116%	福岡44、筑後13	0.60	0.35
A群溶連菌咽頭炎	315	81%	福岡199、北九州46	2.63	2.63
感染性胃腸炎	1026	92%	福岡555、北九州202	8.55	6.54
水痘	43	90%	北九州16、福岡14	0.36	0.35
手足口病	4	-2	北九州2、筑後1	0.03	0.05
伝染性紅斑	47	68%	北九州19、筑後11	0.39	0.38
突発性発しん	97	84%	福岡53、北九州22	0.81	0.56
百日咳	2	-3	福岡2	0.02	0.02
風しん	0	±0		0.00	
ヘルパンギーナ	15	+4	北九州7、福岡5	0.13	0.04
麻しん	0	±0		0.00	
流行性耳下腺炎	110	82%	福岡67、筑後21	0.92	0.74
川崎病(MCLS)	11	+4	福岡8、北九州3	0.09	
マイコプラズマ肺炎	62	111%	筑後22、福岡22	0.52	0.36
クラミジア肺炎	0	±0		0.00	0.00
細菌性髄膜炎	0	±0		0.00	0.02
無菌性髄膜炎	2	±0	筑後2	0.02	0.09
急性脳炎	0	±0		0.00	
急性出血性結膜炎	0	±0		0.00	0.01
流行性角結膜炎	24	+3	福岡11、筑後8	0.92	0.64
性器クラミジア感染症	26	+12	福岡10、北九州8	0.70	
性器ヘルペス	3	-5	筑豊1、筑後1	0.08	
尖圭コンジローマ	1	-4	福岡1	0.03	
淋菌感染症	10	±0	筑後4、福岡4	0.27	
梅毒	1	+1		0.03	

全国情報は平成28年16週分です。全国情報ではマイコプラズマ肺炎168、クラミジア肺炎1例。

平成28年第16週までの累計は、急性灰白髄炎0、結核6839(県内285)、コレラ0、細菌性赤痢42(県内2)、腸管出血性大腸菌感染症199(今週18、県内今週1、計9)、腸チフス15(県内0)、パラチフス5、E型肝炎130、A型肝炎120(今週4、県内3)、オウム病1、ジカウイルス感染症5、SFTS5(県内0)、チクングニア熱2、つつが虫病48、デング熱108(県内1)、日本紅斑熱16、日本脳炎0(県内0)、マラリア14(県内1)、レジオネラ症312、アーベラ赤痢365、ウイルス性肝炎72(県内7)、急性脳炎344(県内18)、クロイツフェルト・ヤコブ病58、劇症型溶レン菌感染症173(県内11)、後天性免疫不全症候群449(県内21)、侵襲性インフルエンザ感染症104(県内4)、侵襲性髄膜炎菌感染症18、侵襲性肺炎球菌感染症987(県内55)、水痘(入院)76(県内6)、先天性風しん症候群0、梅毒1114(県内20)、風しん36(今週1、県内2)、麻しん5(今週0、県内0)例。1類感染症の報告はない。

## 蚊媒介感染症およびダニ媒介感染症の発生状況

福岡県

	蚊媒介感染症	H23	H24	H25	H26	H27	H28(第17週まで)
チクシングニア熱	0	1	0	0	0	0	0
デンシング熱	3	7	12	6	11	1	1
ジカウイルス感染症							
マリア	0	3	3	0	1	1	1
日本脳炎	4	1	0	0	0	0	0
ダニ媒介感染症							
ツツガムシ病	4	4	2	0	0	0	0
日本紅斑熱	2	2	3	0	0	0	0
SFTS	-	-	0	0	7	0	

全国

	蚊媒介感染症	H23	H24	H25	H26	H27	H28(第17週まで)
チクシングニア熱	10	10	14	16	17	17	2
デンシング熱	113	221	249	341(162)	292	113	5
ジカウイルス感染症							
マリア	78	72	47	60	41	14	
日本脳炎	9	2	9	2	2	0	
ダニ媒介感染症							
ツツガムシ病	462	436	344	320	409	51	
日本紅斑熱	190	171	175	241	212	19	
SFTS	-	-	48	61	60	6	

# 中南米地域で「ジカウイルス感染症」が流行

特に妊婦及び妊娠の可能性のある方はご注意ください

## 【症状】

主として軽度の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、斑丘疹、結膜炎、疲労感、倦怠感などを呈します。これらの症状は軽く、通常、2~7日続きます。

## 【治療等】

対症療法となります。通常は比較的症状が軽く、特別な治療を必要としません。

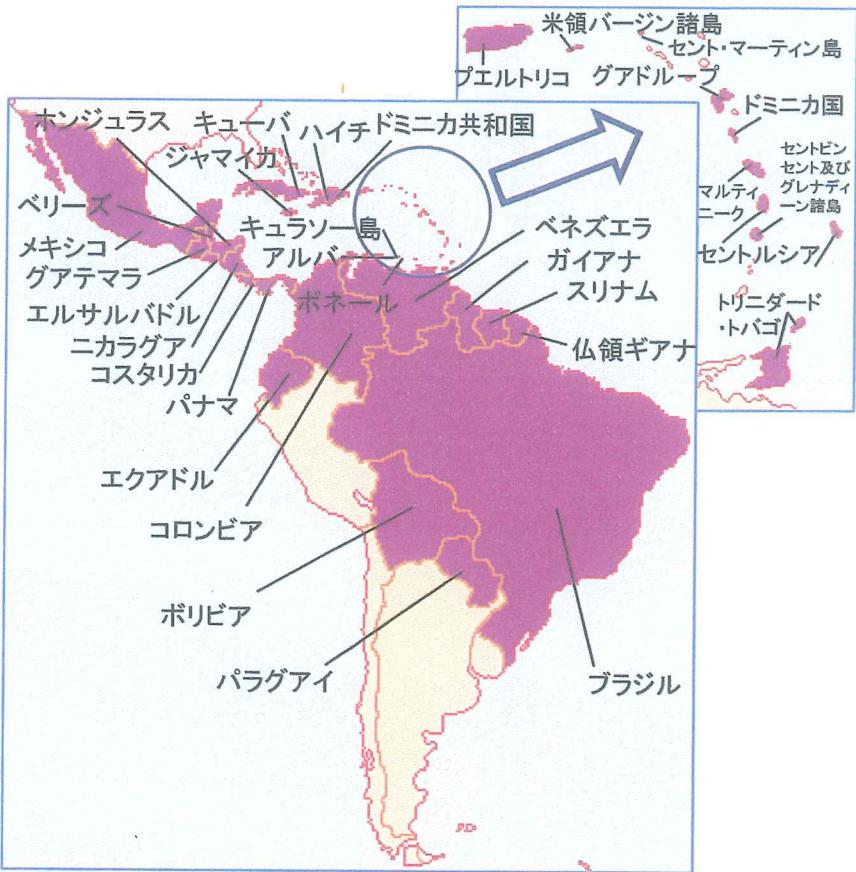
## 【予防対策】

流行地域に渡航される際は、蚊に刺されないように注意してください。

## 【流行地域】

アフリカ、中南米、アジア太平洋地域で発生がありますが、近年は中南米で流行が拡大しています。

また、中南米以外(米領サモア、フィジー、ミクロネシア連邦コスマラエ州、マーシャル諸島、ニューカレドニア、サモア、トンガ、カーボベルデ及びタイ)でも発生しています。



※平成28年4月18日現在 中南米における流行地域

## 【妊婦及び妊娠の可能性のある方へ】

近年、ブラジルにおいて小頭症の新生児が増えており、ジカウイルスとの関連が示唆されています。このため、妊婦の方及び妊娠の可能性のある方は流行地域への渡航を控えた方が良いとされています。やむを得ず渡航をする場合は、特に蚊に刺されないように注意してください。

## 【流行地域に渡航される方へ】

### 【渡航中】

流行地域では、長袖、長ズボンの着用や、定期的な蚊の忌避剤(虫除けスプレー等)の使用などにより、蚊に刺されないように注意してください。

### 【帰国時】

蚊に刺されたことだけで過分に心配する必要はありませんが、心配なことや発熱等の症状のある方は、検疫所にご相談ください。

症状の有無にかかわらず、帰国後少なくとも2週間程度は、忌避剤の使用など蚊に刺されないための対策を行ってください。

また、性交渉による感染リスクも指摘されており、流行地域から帰国した男性は、症状の有無にかかわらず、最低4週間、パートナーが妊娠の場合は、妊娠期間中、性行為の際にコンドームを使用するか性行為を控えてください。

# マダニ対策、今できること

1. マダニの生息場所
2. マダニから身を守る服装
3. マダニから身を守る方法
4. 忌避剤の効果

参考資料 1) マダニの分類とマダニ媒介感染症  
2) マダニ媒介SFTSとは  
3) マダニの生活環



KANA S. Illustrations  
衛生昆虫写真館 Photos

## マダニ対策に関するお問い合わせ

国立感染症研究所昆虫医学部  
Tel: 03-5285-1111 (代表)  
Fax: 03-5285-1178  
e-mail: info@nih.go.jp

## SFTS対策全般に関するお問い合わせ

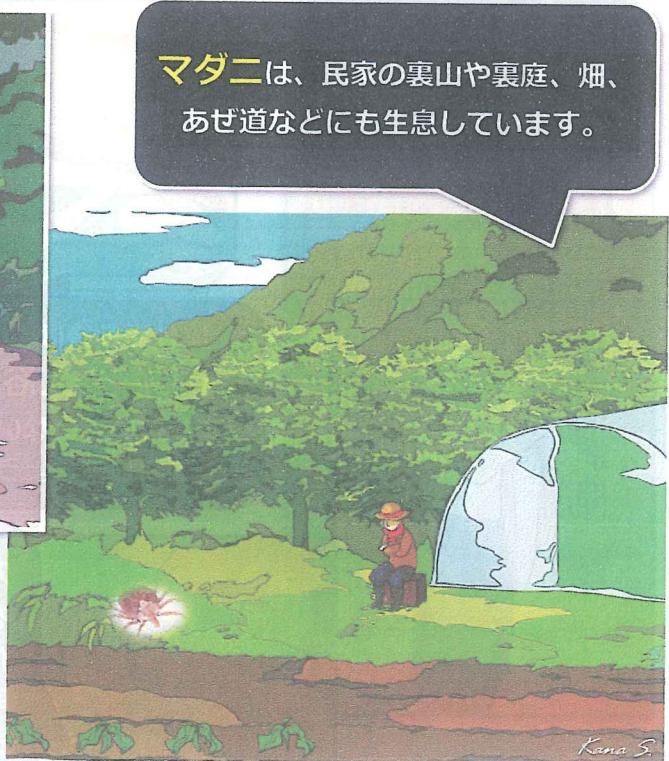
国立感染症研究所  
Tel: 03-5285-1111(代表)  
厚生労働省健康局結核感染症課  
Tel: 03-5253-1111(代表)

## 1. マダニの生息場所



マダニは、シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。

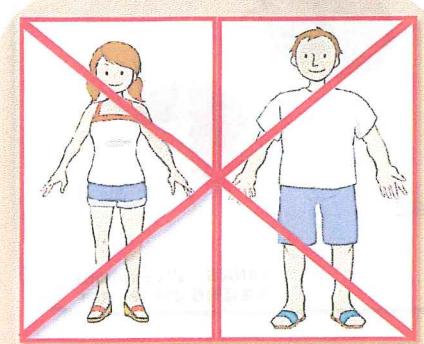
マダニは、民家の裏山や裏庭、畠、あぜ道などにも生息しています。



## 2. マダニから身を守る服装

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！

首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用しましょう。



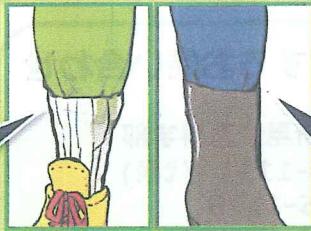
半ズボンやサンダル履きは不適当です！

ハイキングなどで山林に入る場合は、ズボンの裾に靴下を被せましょう。



シャツの袖口は軍手や手袋の中に入れましょう。

シャツの裾はズボンの中に入れましょう。



農作業や草刈などではズボンの裾は長靴の中に入れましょう。

## 3. マダニから身を守る方法

上着や作業着は、家の中に持ち込まないようにしましょう。



屋外活動後は、シャワーや入浴で、ダニが付いていないかチェックしましょう。



ガムテープを使って服に付いたダニを取り除く方法も効果的です。

ダニ類の多くは、長時間（10日間以上のこともある）吸血します。吸血中のマダニを無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿があるので、皮膚科等の医療機関で、適切な処置（マダニの除去や消毒など）を受けて下さい。

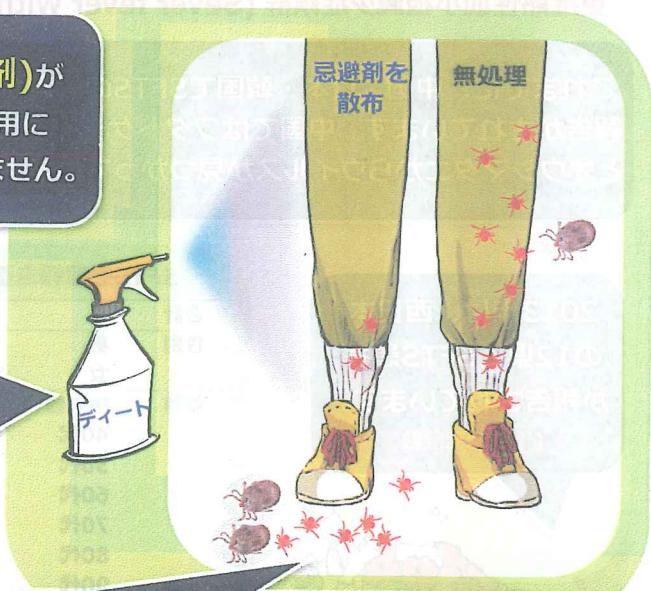
マダニに咬めたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けて下さい。

## 4. 忌避剤の効果

海外ではマダニ対策に**忌避剤(虫よけ剤)**が使用されていますが、日本には、マダニ用に市販されている忌避剤は今のところありません。

日本では、ツツガムシ(ダニ目ツツガムシ科)を忌避する用途で、衣服に塗布して使用する忌避剤(医薬品)が複数市販されています。

このような忌避剤を使用し、マダニに対して一定の忌避効果が得られることが確認されました。



**ディート(忌避剤)**の使用でマダニ付着数は減少しますが、マダニを完全に防ぐわけではありません。忌避剤を過信せず、様々な防護手段と組み合わせて対策を取ってください。

## 参考資料 1) マダニの分類とマダニ媒介感染症

マダニは、世界中に800以上の種が知られています。そのうち日本には47種が生息しています。

節足動物門

ダニ目

マダニ類

### マダニ科 (6属47種)

マダニ属 *Ixodes*  
チマダニ属 *Haemaphysalis*  
キララマダニ属 *Amblyomma*  
カクマダニ属 *Dermacentor*  
コイタマダニ属 *Rhipicephalus*  
(ウシマダニ亜属 *Boophilus*を含む)

### ヒメダニ科

ヒメダニ属  
カズキダニ属



### マダニが媒介する感染症

( ) 内は病原体の種類

日本紅斑熱 (リケッチャ)

Q熱 (リケッチャ)

ライム病 (スピロヘータ)

ボレリア症 (細菌)

野兎病 (細菌)

### 重症熱性血小板減少症候群 SFTS

(フレボウイルス)

ダニ媒介性脳炎 (フラビウイルス)

キャサヌル森林病 (フラビウイルス)

クリミア・コンゴ出血熱

(ナイロウイルス)

など

## 参考資料 2) マダニ媒介SFTSとは

重症熱性血小板減少症候群 (Sever fever with thrombocytopenia syndrome: SFTS)

これまでに、中国・日本・韓国でSFTSの患者が報告がされています。中国ではフタトゲチマダニとオウシマダニからウイルスが見つかっています。



ウイルスの潜伏期間は（マダニに咬まれてから）6日～2週間とされています。

2013年は、西日本の12県でSFTS患者が報告されています。  
( ) 内は発症数



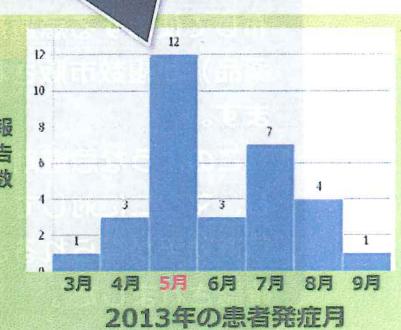
SFTS患者報告基本情報

合計	33名
性別	男 12 女 21
年齢	中央値 73歳
	40代 1
	50代 4
	60代 6
	70代 9
	80代 10
	90代 3

(10月23日現在)

2013年1月1日以降に報告された患者（合計33名）は40代以上でした。

2013年のSFTS患者は5月に多く発症しています。



資料は、国立感染症研究所ホームページ：  
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/sfts/3143-sfts.html>を引用

## 参考資料 3) マダニの生活環

マダニは、幼ダニ、若ダニ、成ダニの各ステージで1回ずつ、生涯で3回吸血します。



マダニは、ヒト以外に、野ネズミ、野ウサギ、シカ、イノシシなどの野生動物や、ネコ、散歩中のイヌなども吸血しています。

幼ダニ

マダニの多くは、春から秋（3～11月）にかけて活動が活発になりますが、冬季も活動する種類もあります。